



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月10日

上場会社名 ニチバン株式会社

上場取引所 東

コード番号 4218 URL <http://www.nichiban.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 堀田 直人

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 執行役員 管理本部長 (氏名) 酒井 寛規 TEL 03-5978-5601

四半期報告書提出予定日 平成26年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	29,670	2.9	1,224	△13.9	1,269	△10.3	757	△6.3
25年3月期第3四半期	28,847	0.8	1,422	9.2	1,415	11.9	808	52.9

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 847百万円 (2.9%) 25年3月期第3四半期 824百万円 (79.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	18.27	—
25年3月期第3四半期	19.50	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第3四半期	46,560	25,391	54.5	612.56
25年3月期	45,801	24,792	54.1	598.11

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 25,391百万円 25年3月期 24,792百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	6.00	6.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	6.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	40,000	3.9	2,000	12.8	2,000	11.0	1,100	11.2	26.54

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期3Q	41,476,012 株	25年3月期	41,476,012 株
26年3月期3Q	25,277 株	25年3月期	24,952 株
26年3月期3Q	41,450,898 株	25年3月期3Q	41,452,609 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記予想は本資料の作成時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

上記の業績予想に関する事項は、添付資料P3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済対策への期待と日本銀行による金融政策により、円安の進行と株価の回復が進み、景気に明るい兆しが見受けられます。輸出産業を中心に企業収益の改善が見られる一方で、輸入価格の上昇に加え、消費税増税の影響が懸念されるなど、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況のなか、当グループでは中長期経営計画【NB100】の中盤となる3ヵ年計画「Stage 2」がこの4月よりスタートしました。「Stage 2」では、収益性基盤を確かなものにする取組みとともに、開発・生産・営業の各機能と運営管理の強化を進めております。それとともに将来に向けた新たな「成長戦略」を次のとおり定めております。

1) 大型開発品の創出

＊顧客に密着した新製品のスピーディーな開発と市場育成

2) 大型設備投資の着手

＊原価低減・環境対応・危機管理を意図した生産方式の更新

3) 海外新規市場の開拓

＊アジア・欧州をターゲットにしたメディカル製品を積極拡大

当第3四半期連結累計期間におきましては、この戦略に基づく課題に取り組んでまいりました結果、売上高は、メディカル事業と海外輸出が好調に推移したことにより、296億7千万円（前年同期比2.9%増）となりました。利益面におきましては、販売費の増加と円安による為替の影響により、経常利益は12億6千9百万円（前年同期比10.3%減）、四半期純利益は7億5千7百万円（前年同期比6.3%減）と前年同期実績を下回りました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

メディカル事業本部

(ヘルスケアフィールド)

ヘルスケアフィールドにおきましては、個人消費の回復は十分実感することができず、さらにドラッグストアを中心とする販売店の競争に加え、一般医薬品のインターネット販売が解禁となり、さまざまなチャンネルで激しく競い合う厳しい状況が続いております。

このような状況のなか、救急絆創膏「ケアリーヴ[®]」シリーズは、テレビCMを中心とした消費者への告知と店頭で品揃えを増やす営業活動を積極的に行った結果、売上が好調に推移いたしました。また鎮痛消炎剤「ロイヒつぼ膏[®]」は、大判タイプを含めシリーズとして店頭の陳列スペースを広げる営業活動により売上が好調に推移いたしました。

(医療材フィールド)

医療材フィールドにおきましては、医療機関が医療材料費を抑制する動きが加速しておりますが、医療現場では感染予防と安全性への意識が引き続き高い状況が続いております。

このような状況のなか、看護師がグローブを外すことなく軽い力でまっすぐ切れる極低刺激性サージカルテープ「スキナゲート[®]スパット」と、感染管理・安全な医療に貢献する「高透湿」「高固定」「低刺激」の3つの思いやりをさらにプラスしたドレッシングフィルム「カテリープラス[®]」が好調に推移いたしました。

以上の取組みを実施してまいりました結果、ヘルスケアフィールドと医療材フィールドを合わせたメディカル事業本部全体の売上高は103億7千4百万円（前年同期比4.6%増）、セグメント利益（営業利益）は18億9千5百万円（前年同期比0.8%減）となりました。

テープ事業本部

(オフィスホームフィールド)

オフィスホームフィールドにおきましては、機能性・話題性の高い文房具が注目を集めていることで、一部の付加価値商品に需要が集まりましたが、一般的には主力ユーザーである官公庁・事業所の需要は回復せず、低価格商品へシフトする非常に厳しい状況が続いています。

このような状況のなか、主力製品である「セロテープ[®]」が順調に推移するとともに、10月に発売いたしました「セロテープ[®]ディズニー」シリーズ、両面テープ「ナイスタック[®]ハンドカッター」はそれぞれデザイン性と高い機能性が注目され、好評をいただいております。

(工業品フィールド)

工業品フィールドにおきましては、製造業を中心に一部の業界で回復が見られるものの、産業用テープ業界全体としては非常に厳しい状況が続いております。

このような状況のなか、クラフトテープと布テープを中心とした包装用テープは売上を維持しつつ収益改善に取り組んでおります。取り組み課題としている食品関連では天候不順に左右されましたが、セロテープ[®]については堅調に推移しました。マスキング分野では建築業界に明るい兆しが出ており需要が拡大している一方、自動車補修業界では依然厳しい状況が続いております。

以上の取り組みを実施してまいりました結果、オフィスホームフィールドと工業品フィールドを合わせたテープ事業本部全体の売上高は192億9千5百万円（前年同期比2.0%増）、セグメント利益（営業利益）は12億3千3百万円（前年同期比13.0%減）となりました。

また海外輸出におきましては、メディカル製品展開の準備がアジア各国で順調に進み、徐々にではあります但し新規市場を含め実績が上がってきております。テープ製品におきましては、円安の強い後押しとともにアジア・欧州を中心とする需要が復調してきたこともあり、売上は好調に推移いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、現金及び預金は減少しましたが、売上債権やたな卸資産が増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ7億5千9百万円増加し、465億6千万円となりました。また純資産は5億9千8百万円増加し、253億9千1百万円となりました。この結果、自己資本比率は54.5%となりました。

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ2億9千3百万円（3.0%）減少し、95億8千6百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、前第3四半期連結累計期間に比べ4億1千5百万円（27.0%）減少し、11億2千5百万円となりました。これは主に売上債権とたな卸資産が増加したことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、前第3四半期連結累計期間に比べ11億5千8百万円（53.5%）減少し、10億6百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出が減少したことによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、前第3四半期連結累計期間に比べ7千5百万円（22.2%）増加し、4億1千7百万円となりました。これは主に短期借入金の返済によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

景気回復とともに国内経済の持ち直しが期待される所ですが、石油製品を中心とする原材料価格や燃料費の高騰、さらには平成26年4月の消費税率引き上げへの対応など、当社を取巻く環境は依然として予断を許さない状況が予想されます。

このような経営環境のなか、当グループは中長期経営計画【NB100】「Stage2」の初年度として、「基盤となる事業の効率化・安定化」による売上拡大と経営環境に左右されない収益構造の強化による利益確保を推進してまいります。また、『信頼され期待される企業』を目指し、「企業ブランドの向上」に取り組むとともに、将来に向けた「成長戦略」を確実に実行してまいります。

以上により、平成26年3月期の連結業績予想につきましては、平成25年5月13日の公表時点から修正は行っておりません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,653	9,283
受取手形及び売掛金	12,481	12,958
有価証券	506	506
商品及び製品	2,897	3,186
仕掛品	1,278	1,392
原材料及び貯蔵品	1,094	1,280
その他	818	805
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	28,727	29,411
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,416	5,309
その他(純額)	6,978	7,197
有形固定資産合計	12,395	12,506
無形固定資産		
投資その他の資産	232	203
固定資産合計	4,445	4,438
固定資産合計	17,073	17,149
資産合計	45,801	46,560
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,481	7,964
未払法人税等	333	208
賞与引当金	—	510
役員賞与引当金	64	55
その他	4,239	3,871
流動負債合計	12,119	12,610
固定負債		
長期借入金	2,000	2,000
退職給付引当金	3,199	2,927
役員退職慰労引当金	93	74
長期預り保証金	2,919	2,959
資産除去債務	92	90
その他	585	507
固定負債合計	8,889	8,559
負債合計	21,009	21,169

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,451	5,451
資本剰余金	4,186	4,186
利益剰余金	15,204	15,712
自己株式	△8	△8
株主資本合計	24,834	25,342
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	108	138
為替換算調整勘定	△150	△90
その他の包括利益累計額合計	△42	48
純資産合計	24,792	25,391
負債純資産合計	45,801	46,560

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	28,847	29,670
売上原価	20,565	21,371
売上総利益	8,282	8,299
販売費及び一般管理費	6,859	7,074
営業利益	1,422	1,224
営業外収益		
受取利息	10	11
受取配当金	9	9
持分法による投資利益	16	51
その他	39	54
営業外収益合計	76	127
営業外費用		
支払利息	37	35
支払手数料	31	31
その他	14	15
営業外費用合計	83	82
経常利益	1,415	1,269
特別利益		
固定資産売却益	0	0
事業譲渡益	—	50
特別利益合計	0	50
特別損失		
固定資産除売却損	107	70
減損損失	—	69
特別損失合計	107	139
税金等調整前四半期純利益	1,308	1,180
法人税等	500	422
少数株主損益調整前四半期純利益	808	757
四半期純利益	808	757

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	808	757
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3	29
持分法適用会社に対する持分相当額	12	60
その他の包括利益合計	15	90
四半期包括利益	824	847
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	824	847

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,308	1,180
減価償却費	1,275	1,325
減損損失	—	69
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△251	△271
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△1	△19
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△0	△0
有形固定資産除売却損益(△は益)	29	48
事業譲渡損益(△は益)	—	△50
受取利息及び受取配当金	△19	△21
支払利息	37	35
売上債権の増減額(△は増加)	△67	△476
たな卸資産の増減額(△は増加)	△41	△589
仕入債務の増減額(△は減少)	△112	483
その他	△235	△8
小計	1,919	1,705
利息及び配当金の受取額	18	21
利息の支払額	△42	△40
法人税等の支払額	△353	△561
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,541	1,125
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△279	△435
定期預金の払戻による収入	316	510
有形固定資産の取得による支出	△2,189	△1,213
投資有価証券の取得による支出	△5	△4
投資有価証券の売却による収入	—	2
事業譲渡による収入	—	50
その他	△7	84
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,165	△1,006
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	50	—
長期借入れによる収入	2,000	—
長期借入金の返済による支出	△2,000	—
配当金の支払額	△248	△248
その他	△142	△168
財務活動によるキャッシュ・フロー	△341	△417
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	5
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△961	△293
現金及び現金同等物の期首残高	10,245	9,879
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,283	9,586

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント			調整額 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)
	メディカル事業本部 (百万円)	テープ事業本部 (百万円)	合計 (百万円)		
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	9,922	18,925	28,847	—	28,847
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	49	56	105	△105	—
計	9,971	18,981	28,953	△105	28,847
セグメント利益	1,910	1,417	3,328	△1,906	1,422

(注) 1. セグメント利益の調整額1,906百万円には、セグメント間取引消去105百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用1,800百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント			調整額 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)
	メディカル事業本部 (百万円)	テープ事業本部 (百万円)	合計 (百万円)		
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	10,374	19,295	29,670	—	29,670
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	52	52	104	△104	—
計	10,427	19,347	29,774	△104	29,670
セグメント利益	1,895	1,233	3,128	△1,904	1,224

(注) 1. セグメント利益の調整額1,904百万円には、セグメント間取引消去104百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用1,799百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「テープ事業本部」セグメントにおいて、遊休不動産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては69百万円であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。